

〈学習の導入〉

- ・ 鉛筆はノートに挟んで、閉じておいてください。
- ・ 挨拶。

T 昨日家に帰って読んでみた人。(児童、半数ほど挙手)
ノートを開いてみた人。(二、二名挙手)

T さっそく読んでもらおうと思います。今日は一番のところだけ。(二人に指示を出す。)読む人は立って。マスクをしているから、はっきり意識して読んでください。聞く人は本を持ってね。

*よむ

T 本を置いてください。二人の人、しっかり読んでくれた。よかったね。本はゆっくり読むのがいい。

T 昨日のことを思い出していきます。残雪がじいさんの狩場に来るよう

*とく

になって、じいさんが撃ち落とされたがんの数は・・・とやったね。どうだった？

C 一匹も捕まえてないです。

T そう、ゼロです。銃の弾が届くところにごんは一羽も来ない。だから捕れるはずがない。それでいろいろな工夫をしましたよ。

(線分を四つに分けて区別して板書。)この1、2、3、4が年を表しているよ。

T ごんが来てすぐだから、季節は。 C 秋。

T 四だけは。 C 春。

T ここ(一)で捕まえたのが。 C 一羽です。

T また一羽捕まえたのが。 C 三です。

T 爺さんの作戦でうまく捕まえたのはどっち。 C 一です。

T さあ、この作戦何を使った？

C たにし、うなぎばり、くいです。

T たにしはどこにくつついているか、分かるか。 C うなぎばり。

T そう。くつついていないと意味がないな。それから糸は？・・・丈夫な糸だね。 C たたみ糸。

T たたみ糸って、そう簡単に切れませんよ。そしてこれがないと困る(くいの絵をかく)。 C くい。

T そしたら、この一羽が見事に引っ掛かりました。捕まったがんは大変。大暴れました。ほかのがんは・・・?

C 他のえさ場に行った。

T じいさんはもう来ないと思った？来ると思った？

C 鳥の頭だから、またくると思った。

T 教科書ではなんて書いてありますか。

C たかが鳥のことだ。一晩たてば、また忘れて・・・

T この仕掛け、いっぱい作ったでしょ。この仕掛け、次の日また増やしましたよ。次の日、じいさんが行ったら鳥の大群は？

C 飛び立った。

T なのに、引っ掛かったのは。 C 一羽もない。



T 今日は、そこを書いて勉強します。(書く場所を指示する。)
急いで書く必要はない。丁寧に考えながら書いてください。

*かく

T 鉛筆はノートに挟んで閉じてください。教科書も閉じてください。黒板だけで勉強するから。

T Oさん、立って、ゆっくり読んでみてください。

*よむ

C (板書を音読する。)

T 分からない言葉、ないですか。「こりて」これ、分かるか。どういうことだ？

*とく

C 失敗してもう二度とそうならないように注意する。

T 説明うまいね。もう二度と、だね。

T これは習っていない。「異状」は？

C いつもとちがう変わったこと。あやしいこと。

T 「状」は。 C 状態、とか。

T 分けて考えます。「ううむ」は別です。

T 二つに分けるとしたら・・・？

考えることが大事だよ。考えないと始まらない。よく考えて目星をつけて。

C 「・・・はじめて飲みこんだものらしい。」

T それも一つの区切り方かな。

C 「・・・引きのばされています。」のところまでと、その先。

T 後ろの方を分けるとなったら、さっきの分け方があるかもしれない。

じいさんの気持ちは。 C 三番。

T 一は？ 二は？一の中の漢字一つで言ったらじいさんが何をしたいこと？ C 見たこと。

T そう。じゃ、二は？ C 考えたこと。

T 考えたことって分かる言葉はどれだ？

C 仲間を指導した。

T これ、考えた中身だね。

C 「ちがいません」。

T これ、そうですね。もう一つ、あるでしょ。

C 初めて飲み込んだ「らしい」。

T そう、考えたってこと、分かるでしょ。

じいさん、経験がとて長いんです。見ると言っても、ぼうっと見ていないで、気付きました。気付いたことは何だ？

C えさを丸のみしない。

T それは二でそう思ったのね。

C 糸がみなびいんと引きのばされています。

T そう、糸がびいんと(曲がった糸と、ぴんとした糸の絵を板書)。

それ、一本ですか。二、三本ですか。

C みな、引きのばされています。

T たくさんいたがんは、どのがんもびいんと引つ張ったんでしょ。そういうことができるのはだれ、とじいさんは考えた？

C 残雪です。

T 残雪はいったいどういうことを指導したんだろう。その順番は？指導



した中身、あるでしょ。

C 丸のみをしないこと。

T 次は。

C くちばしの先にくわえること。

T それが二番目ね。三番は。

C ぐうっと引っ張る。

C 異状なしと認めると飲みこんだ。

T それ、四番ね。飲みこんだは五でもいいかな。

こういう鳥に、じいさんの長い経験の中で会ったことがあるか。ないでしょ。その気持ちが出たのはどこ。

C 「ううむ。」

T この声。最初は鳥のことをどう思った？

C 見下していた。

T 言葉で言うのと。

C 鳥は・・・

C たかが鳥。

T ここにきて、鳥に対して、感嘆の声をあげた、という所です。一緒に読んでおしまいになります。

*よむ

T 先生に合わせて、自分の気持ちをしっかり表して礼をするんだよ。さようなら。



*「今日の自主勉強です。」と、 →

意味調べする言葉を授業終わりにノートに書いていたKさん。

